

学校名	唐津市立鏡山小学校	C: やや不十分である D: 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・業務改善、教職員の働き方改革を推進し、自らの授業を磨いたり、日々の生活を豊かにすることで、自らの人間性を高め子ども達に効果的な教育活動を行う。 ・児童が、自他の生命を尊重し、思いやりをもって他者に接することができるよう、人権教育や道徳の授業を充実を図る。	
2 学校教育目標	自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成	
3 本年度の重点目標	【知】 ① 学習規律を整える。 ② 個別最適な学びと協働的な学びを通して、主体的にいきいきと学ぶ児童を育成する。 ③ 家庭学習の工夫。 【徳】 ① 児童・保護者・職員の心の教育を充実するために、校内体制を整える。 ② 特別支援教育の充実を図る。 【体】 ① 保護者と共に食育を推進する。 ② 望ましい生活習慣を身に付けるために、家庭での生活習慣に対する意識を高める。	

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価					
(1)共通評価項目								主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○資質・能力を育成する授業についての共通理解・共通実践 ○学習規律の確立 ・「かつ・おタイム」の徹底 か・・・片付け つ・・・次の時間の準備 お・・・お茶・おトイレ	○「学力向上対策評価シート」の【共通実践】に基づき、授業改善に努めることができますか」の質問に対し、肯定的な回答をした教師85％以上 ○「次の授業の準備をして休み時間を過ごすことができますか」「授業が始まる前に席につくことができますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85％以上	・学力向上対策評価シートを校内研究と連携させ、より取り組みやすくする。 ・校内研修で定期的に学力向上対策評価シートを振り返り、意識化を図る。 ・校内研究により、取組の促進を図る。 ・年3回「かつ・おタイム」強化週間を設定し、児童への意識化を図る。	A	・「学力向上対策評価シート」の【共通実践】に基づき、授業改善に努めることができますか」の質問に対し、肯定的な回答をした教師が98％と非常に高い数値であった。しかし、「そう思う」と回答した職員は25％にとどまっているため、校内研究の内容や啓発の仕方を改善していかなければならない。 ・「次の授業の準備をして休み時間を過ごすことができますか」「授業が始まる前に席につくことができますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童が、それぞれ93％、91％いた。中間評価と同程度の数値ではあるが、授業前の準備については、質の向上が見られた。	A	・行事等の精選によって生み出された時間で、授業の質を高める授業改善が行われていると感じる。 ・全学年に「かつおタイム」が浸透していることが伝わってきた。日々の積み重ねの実践の成果とを感じる。	学習指導部 研究推進部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達を大切にして良い関係を築き、楽しく学校生活を送ることができるか」の項目で肯定的な回答をした児童85％以上	・学期に1回、低中高学年別の人権学習を実施し、人権に関わるアンケートを実施する。	A	・「友達を大切にして良い関係を築き、楽しく学校生活を送ることができるか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童が96％となった。これは職員が特別の教科道徳や人権教育に進んで取り組むことで、児童が豊かな心を育むことに繋がっているようである。まだ、児童間のトラブルや相手を傷つけるような言動もあるので、引き続き指導を続けていく必要がある。	A	・学校で学び、身に付けてほしいことの一つに人とのよりよい関わり方があると思う。登下校の様子を見ていても友達と楽しんでいる様子が伝わってくる。大規模校ならではのよい上下関係があり、他者を意識して生活ができていると思う。継続して、他者とよりよく関わるようにできるように指導をしてほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しいですか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童85％以上 ○認知したいじめの3か月以内での解消率100％を目指す	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。	A	・成果指標に挙げたアンケート項目で肯定的な回答をした児童は90％であり、数値目標を達成できた。多くの児童が学校生活を前向きに捉えて活動していることが伺えた。 ・本年度に認知したいじめについては、組織的な対応が速やかにできており、現時点においての解消率は100％である。	A	・定期的にアンケートをとることで、いじめの未然防止・早期発見・早期対応を組織的に実施されていることが分かる。アンケート結果がよい場合も、保護者や地域と連携をして児童の変化に気付けるようにしてほしい。	生活指導部 各学年主任	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれると思いますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童85％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童90％以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通しを持たせ、学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の変容に気付かせていく。また、教師は活動の過程において児童に1日に1回以上肯定的な声かけをするように意識する。	B	・アンケート結果によると、「先生が自分の良いところを認めてくれる」と回答した児童の割合は全体の88.3％で、設定した目標を上回った。さらに、前回調査より0.9ポイント上昇している。 ・自身の将来の夢や目標については、肯定的な回答した児童の割合は87.2％となり、設定した目標を下回った。しかし、前回調査より1.1ポイント上昇している。今後も児童のよさや頑張りを認めていくことを継続しながら、児童の意欲の向上や夢のきっかけ作りにつなげていく。	B	・一人一人に向き合った先生方の対応で、子ども達が安心して生活を送っているように感じた。意欲したことを先生から褒めてもらうことは、自信や成長のきっかけにつながると思う。今後も、子ども達を認めるまなざしを続けてほしい。	主幹教諭・教務主任	
	○◎児童が自分や友達の良さを認めることができる態度を育てる教育活動	○◎「自分や友達の良さをみつつけようとしていますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童85％以上	・各学年グループまたは、低中高学年グループで学期に1回ずつ人権集会を行い、人権意識を高めるとともに、友達の良いところを見つける活動を充実させる。	A	・「友達を大切にして良い関係を築き、楽しく学校生活を送ることができるか」の質問に96％の児童が肯定的な回答をしていることから、各学級で道徳教育を計画的に実施できたのではないかと推測される。	A	・鏡地区は、他地域から移り住んで来られる方も多い。多様性を認め合い、広い視野で捉えられるように育ってほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 各学年主任	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしていますか」の質問に対し、肯定的に回答した児童90％以上	・食事の大切さを実感したり、命を作る人（農業・畜産）への感謝の気持ちを持ったりできるように給食時間や道徳の時間に学年に応じて指導を行う。 ・年に2回、食に関するアンケートを実施する。	A	・アンケートによる調査では、「健康に良い食事をしていますか」という質問に肯定的に回答した児童が91％、保護者が95％となり、目標数値を上回った。さらに前回調査よりもわずかながら数値が上昇している。家庭でのさらなる意識向上の結果だと思われる。また学校での給食週間の取り組みにより、児童の食に対する意識が向上したと思われる。来年度も児童への指導を継続し、食への関心を高めていきたい。	A	・地域の食材を使った学校給食や食育を実施してもらっていると感じる。学校給食は家庭の食事とは異なり、栄養のバランスも考慮されているため、そのことについての興味・関心をもてよう今後も食育に力を入れてほしい。	健康指導部 学校栄養職員 養護教諭	
	○運動習慣の定着化	○「授業以外で、運動やスポーツに進んで取り組んでいますか」の質問に対して肯定的に回答した児童80％以上	・スポーツチャレンジへの取組を推奨する。 ・運動できる場を確保するため、朝の時間の運動場の開放を行う。	B	・「授業以外で、運動やスポーツに進んで取り組んでいますか」という質問に対して、肯定的に回答した児童が82％で、目標数値を上回ったが、前回調査よりも数値が3ポイント減少した。理由としては、気温が下がり外で体を動かすことに抵抗を感じる児童が増えたためではないかと考える。スポーツチャレンジは呼びかけはしたものの、もう少し周知するように委員会活動などで工夫できたかもしれないので、来年度はその反省を踏まえて活動していく。	A	・朝の時間に運動場を開放するのはよいと思う。今、あらゆるスポーツで力を発揮して輝いている中高生や大人がいる。生涯スポーツを楽しむ素地をつくることができるように、スポーツチャレンジにも継続して取組んでほしい。	健康指導部 学校栄養職員 養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	・職員会議資料等のデジタル化を進め、効率化を図る。 ・PDCAサイクルを意識し、行事の精選やスムーズな運営に生かす。	B	・職員会議資料についてはデジタル化を継続し、時間を意識した運営に努めた。内容によって、時間が延長することもあった。 ・異学年交流「スマイル活動」を縮小したり、得意なことステージ発表「キラリタイム」を取組発表に変更したり、行事の見直しで業務精選を図ることができた。平均時間外勤務時間は、45時間を超える教員数は、4月から8月までの平均が14名、9月から1月までの平均が12名だった。さらに、業務精選に取り組んでいきたい。	B	・先生方の長時間労働、膨大な業務量でストレスを抱えることは、子ども達にもデメリットになると思う。必要なこと、そうではないことを吟味し、内容の精選を進めてほしい。PTAや地域にも協力を仰ぎながら業務効率化を進めてほしい。	企画会	
	○教職員の連携促進	○「学年や部会など仕事が平準化できるように主体的に連携しようとしていますか」の質問に対し、肯定的な回答をした職員70％以上	・業務の負担に偏りがないか、企画会、運営委員会で情報共有し、対応する。	A	・アンケートの結果によると、96％の職員が肯定的な回答をしていて目標数値を上回った。職員研修を実施し、施設時刻を意識することで、時間外在校等時間は全体的に減っている。業務内容が多い職員の負担にならないように引き続き業務の平準化を目指していく。	A	・共通理解、情報の共有等、当たり前のことが大切にされていることが伺える。肯定的な回答が多いことから、教職員の連携がとれていることが伝わってくる。	企画会	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	○「密に職員同士で情報交換を行い、具体的な手立てをもって支援することができたか」の質問に対して肯定的な回答をした職員90％以上 ○「特別支援教育に関する通信を読んでいますか」の質問に対し、肯定的な回答をした保護者80％以上	・特別支援担当者が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者の必要としている情報を把握し、特別支援部より通信を年5回程度発行し特別支援教育についての理解を図る。	A	・児童の様子について、学級担任や生活支援員と引き続き密に情報共有することができた。職員アンケートにおける肯定的な回答の割合は98％だった。共通の手立てを取りながら支援に当たることができた。 ・アンケートにおいて87％（昨年度76％）の保護者が特別支援通信を読んでいると回答があった。通信を計画通りに発行し、多様性への考え方や関わり方などについて啓発することができた。	A	・保護者向けの通信でしか特別支援教育に関することが分からない場合もある。特別支援教育に関わる児童だけでなく、全ての子どもをみんなで守り育てていこうとする姿勢が大切であると思う。	特別支援部	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・		・		・		
●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	・各専門部の機能を活かし部会運営を充実させたことで、学校の課題や達成目標を常に職員と共有し、全体で目標達成の取組に繋げることができ、今年度の成果となった。次年度も、部会や運営委員会を核に、全職員のベクトルを合わせ、PDCAサイクルを意識した学校運営に全職員で取り組んでいきたい。特に、次年度は、業務効率化の推進と不登校支援体制の充実を図っていきたい。								